



誰にでもわかる太陽光発電

太陽電池が開発されてから約50年たちます。最初は電力会社の電源がこない無線中継基地などが主な利用用途でした。いわゆる初期の頃はアメリカが世界のトップを走っていました。日本がアメリカを完全に抜くのは1999年です。それ以降は日本が世界のトップを走り続けています。2002年度、世界の太陽電池出荷量は520MWです。そのうち日本は世界の約半分、49%のシェアを持っています。520MWとはどれくらいかというとな52万KW。原発一基分が約100万KWといわれますから、単純には比較できませんがその約半分ぐらいの規模だといえます。

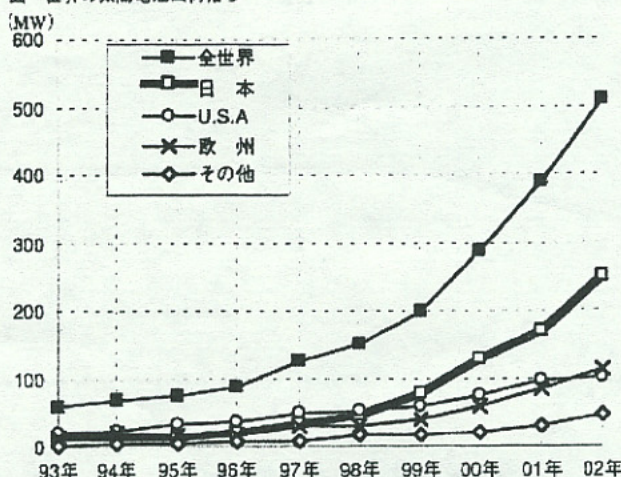
「太陽電池の生産量は日本が世界一」

林 敏秋 (ワーカーズコープ エコテック)

日本が世界のトップに躍り出たのは言うまでもなく、住宅用の太陽光発電の普及などが原因として考えられます。国が助成金をだして太陽電池を生産しているメーカーも大量生産に本腰を入れはじめました。今後日本のメーカーはさらに増産していく方向です。

日本がトップであることは誇るべきことかもしれませんが、注意すべきはその日本で設置されている太陽光発電のうちほとんどが個人住宅であるという点です。環境のために採算を度外視して高額な設備を付けた市民(パイオニア)の存在を抜きにしては語れないのです。

図 世界の太陽電池出荷推移



「5月18日 第三回太陽光発電世界会議 in 大阪、日本市民の取り組み」

□5月10日～20日にかけて大阪国際会議場(グランキューブ大阪)を舞台に「ワールドPV(太陽光発電)エポック・イン・大阪」が開かれます。このイベントは、PVの技術をめぐる討論会・第三回太陽光発電世界会議(WCPEC-3)、日米欧のPVメーカーの展示会など、世界の産官学の太陽光発電関係者が一堂に会する予定です。今回は世界のトップを走る日本が、ホスト国となってアジアで初めて開かれる会議です。

□この会議で市民・環境NGOサイドの取り組みとして「太陽光発電普及における日本市民の取り組み国際会議 in 大阪」を開催することになりました。きょうとグリーンファンドも事例報告をし、パネラーとして参加します。

□世界の人々に日本の市民の自然エネルギーへの先駆的な取り組みを発信し、交流・討論を行いたいと思います。是非ご参加ください。

・時 5月18日(日) 13:00～17:00

・場所 大阪国際会議場 TEL06-4803-5555 (JR大阪環状線「福島駅」から徒歩10分)

・内容 報告: 日本市民の立場から、海外の市民の取り組みから

パネルディスカッション: 環境NGO、市民共同発電所、研究者、電力会社など

・主催 第三回太陽光発電世界会議「日本の市民の取り組み」実行委員会

(きょうとグリーンファンドも実行委員会に参加しています。)